

## 地域づくり表彰

株式会社 TREE（新潟県三条市）

# 若者が主役のまちなか活性化

株式会社 TREE

代表取締役社長

中川 裕稀



## 1. 三条市の概要

三条市は面積約 432km、人口約 9.3 万人で新潟県のほぼ中央にあり、県央地域と呼ばれるところに位置する地方都市です。

江戸時代から続く鍛冶の伝統を受け継ぎつつ、打刃物を始め、作業工具、木工製品のほか、キッチン用品、大工道具、測定器具、園芸用品、アウトドア用品、リビング用品、住設機器など、金属加工を中心とした多様な加工技術と、ものづくりの中小企業の集積地として有名です。



三条の鍛冶

また、大河・信濃川とその支流・五十嵐川と刈谷田川の豊かな水と肥沃な大地に根ざし、栗ヶ岳・守門岳に代表される県立自然公園の緑豊かな自然に育まれたまちです。

中心市街地には三条八幡宮や法華宗総本山本成寺を始めとする歴史的建造物が多くあり、導祖神（天狗）が練り歩く大名行列や鬼踊りなどの伝統行事が一年を通して行われ、歴史と文化を感じることができます。

交通においては、東京から上越新幹線で最短 100 分、高速道路も関東・北陸・東北方面とつながっているほか、新潟空港からも車で約 40 分とアクセス抜群です。また、中心市街地から 30 分車を走らせれば自然豊かな山や市外の海に行くことができる立地の良さも魅力の一つです。



棚田（下田地域）

## 2. 活動開始の背景・経緯

三条市の中心市街地は他地域の例にもれず、人口減少と高齢化という問題を抱えており、5つあった商店街は空き店舗が増え、寂しい雰囲気となっていました。



後に「TREE」ができる空き店舗  
（旧新光屋米店）

商店街の一つである一ノ木戸商店街では、大正～昭和初期に建てられた「旧新光屋米店」を平成 25 年に改修し交流拠点施設を開設しました。平成 28 年度に運営団体が撤退し、空き店舗になる危機に直面しました。

そこで、協同組合一ノ木戸商店街は、新たな交流拠点施設の運営を、ものづくり企業と商店街の老舗料亭に委託し、当時それぞれの社員であった 20 代前半の若者 4 名が施設をリニューアルし平成 29 年 4 月に中心市街地拠点施設「TREE」を立ち上げました。



TREE 改修後



TREE の立ち上げメンバー 4 名  
中心市街地の活性化に向け、若者

ならではの視点を活かし、これまで商店街にはいなかった若者をターゲットとした取組を行うことにしました。同時にメンバー自身も商店街に来た若者として「外から来た若者である自分たちを受け入れてもらい、一緒に商店街をよくしていく」ことを重視し、商売の大先輩である店主からの意見・助言に耳を傾け、商店街の活動に積極的に顔を出すようにしました。振り返れば、地元の商店主に敬意を払い、コミュニケーションを重視してきたからこそ、若者視点の発想やまちの再発見をより明確に打ち出せてきたのだと思います。

代表の中川を含む立ち上げメンバー 4 名が独立し、令和 2 年 3 月に現在の株式会社 TREE を設立しました。

## 3. 活動の内容

### 【飲食事業】

従来の交流拠点施設は、まちづくりに興味がある人のみが集う場といった固定的なイメージがありました。これを払拭するため、あえて「ハンバーガー屋」「飲食店」という印象を与える工夫をし、来館目的を明確化させ、来館しやすくしています。

飲食事業の軸となるハンバーガーは、全ての材料を商店街の専門店で購入し、「地元を味わえる」商品を作り上げています。ほかにも商店街の各商店とコラボ商品を定期的に開発し、商店街が持つ固有の資源を活かし、店主との一体感を重視した地域の新たな特産品となる商品作りにも取り組んでいます。



ハンバーガーとドリンク

また、店内では昨今のキャンプブーム以前から三条市の誇る地域資源

であるアウトドア用品を使って、キャンプと星空をイメージした「どこから撮っても映える」空間を提供しており、積極的な SNS 発信に加え、「映える」ことで来館者からの SNS 発信を促す工夫をしています。加えて、非日常の空間に集められた地元製品に自然と触れることで、地元のすばらしさを再認識し、その魅力が更に SNS の発信を通じて拡散されるよう働きかけています。



「映える」店内

#### 【若者の伴走支援】

猟師や古着屋など、若者が「やってみたい」ことを実際に「やってみた」人から話を聞き、参加者全員で経験値を共有する「やってみたお話」というイベントを毎月開催しており、情報交換を通じた挑戦への後押しと相談し合えるコミュニティの形成を行い、意欲的な若者に対し、「やってみたい」を実現させる伴走支援も行っています。



「やってみたお話」

このイベントは、TREE 自身が商店街と若者をつなぐシンボルとなり、若者の挑戦に特化した取組を徹底して行うことで、報道からの注目を集めています。また、TREE の活動において常に自走可能なまちづくりを追求している姿が参加する若者に影響を与えており、まちづくりを「自分事」に捉え、積極的にまちへ関わろうとする人が増えています。

まちづくりに関わる若者や創業・起業する若者など、将来のまちの担い手を生み出すことで、まちの持続性の向上につながっています。



TREE 店内で起業した古着屋

#### 【原宿の商店街とコラボ】

令和元年から令和3年まで、原宿の商店街店舗を一ノ木戸商店街の空き店舗を使って期間限定で出店させるイベントを複数回開催し、商店街が若者を中心とした約7千人の来場者でにぎわいました。

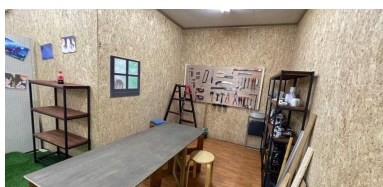
地元学生による運営ボランティアからは、自分たちの手で地元で憧れの「ハラジュク」を作り上げ、活動を通じて地域づくりに目覚めたという意見がありました。その後に清掃活動等にも参加する姿が報道に取り上げられ、若者のまちづくりへの参画という観点から注目を集めました。また、イベントをきっかけに、使用した空き店舗への新規出店者が増加するといった連鎖を生み出しています。



イベントでにぎわう空き店舗前

#### 【アニメの聖地化に向けた取組】

令和4年から始まった、ものづくりをテーマにしたオリジナルテレビアニメ「Do It Yourself!!」の舞台として一ノ木戸商店街が登場しました。商店街全体でアニメファンを歓迎するムードを醸成するため、令和5年4月に交流・発信の拠点となる「DIY ファンベース」を空き店舗にオープンさせました。併せて、スタンプラリーや生誕祭などの交流を促す企画を積極的に行っています。その結果、来訪したファンと店主が積極的に交流するようになり、定期的に商店街を訪れる商店街ファンが誕生し、関係人口の増加と継続的な商店街の活性化につながっています。



DIY ファンベース（部室風）

#### 【他市・他県にノウハウの横展開】

前述した様々な活動が関係者や報道を通じてより広く知られ、全国から交流拠点施設の設置や商店街活性化の相談が多く寄せられています。

商店街を巻き込むイベントや施設の立ち上げ、運営のノウハウを提供しており、全国各地へ活動の幅を広げています。



静岡県浜松市で地域の方々とお店

## 4. 成果

中心市街地拠点施設「TREE」の運営を開始してから、施設来館者数・商店街の1日の歩行者数共にV字回復を果たしました。また、それまで空き店舗の多かった一ノ木戸商店街に7年間で8店舗の新規出店が相次ぎ、今なお商店街に出店したいという相談が複数件寄せられています。令和5年には、空き家活用を行う団体の拠点もでき、地域おこし協力隊員が移住してきました。

TREE の活動によって若者を含む幅広い層の来街者と商店街の新規出店が増加という大きな成果につながったといえます。

活動を続けることで、次の世代の担い手を増加させるだけでなく、店主の販売意欲の向上や、商店街に行くことが地域の方々の楽しみになるなど、この地に住み続ける方の生活意欲の向上にもつなげていけると考えています。

## 5. 課題と展望

人口減少や高齢化による弊害の一つとして、働き手不足が懸念されます。商店街では従来の仕事をデジタルに置き換えていく活動に取り組み始めました。組合内の意思疎通や店舗の運営方法などは未だにアナログの部分が多く、効率化させていく余地が多くあると感じています。

デジタルに不慣れな店主をサポートするためにも、慣れていない若者からどんどん入ってもらい、更に関係性を深めていくことで持続可能な商店街を地域一丸となって作り上げていきたいです。

一緒に「やってみたい」方、商店街でお待ちしております。